

九州運輸局メールマガジン 平成24年10月11日 第187号

～九州の明日を拓く運輸と観光～

<http://www.tb.mlit.go.jp/kyushu/>

目次

1 九州運輸局ホームページアップ情報（10月4日～10月10日掲載分）

- ・各種情報
- ・分野別情報
- ・報道発表
- ・お知らせ

2 現場レポート

- ・防災に対する意識向上を目指して！！
～平成24年度九州運輸局防災訓練～

3 九州運輸局セミナー

1 九州運輸局ホームページアップ情報 （10月4日～10月10日掲載分）

----- 各種情報 -----

《入札・契約情報》

企画競争実施公示（平成24年10月4日、10月5日及び10月10日分）

http://www.tb.mlit.go.jp/kyushu/nyusatsu/list2.html#KIKAKU_KOUJI

----- 分野別情報 -----

《バス・タクシー・トラック》

自家用有償運送関係公示等（番号6 道路運送法における登録又は許可を要しない運送の態様について パンフレットの追加）

http://www.tb.mlit.go.jp/kyushu/gyoumu/jidousya_k/file14.htm

----- 報道発表 -----

「南海トラフ巨大地震等に対応した支援物資物流システムの構築に関する九州ブロック協議会」の開催 ～九州における「大規模災害」に備えて～

<http://www.tb.mlit.go.jp/kyushu/press/pdf/2012-1009-butsuryu.pdf>

----- お知らせ -----

平成24年度第2回自動車運送事業者自動車無事故表彰の公示について

http://www.tb.mlit.go.jp/kyushu/osirase/file001_022/2012-1004-1349-63.htm

平成24年度整備管理者選任前研修の開催について

http://www.tb.mlit.go.jp/kyushu/osirase/file001_022/2012-1010-1049-63.htm

2 現場レポート

防災に対する意識向上を目指して！！

～平成24年度九州運輸局防災訓練～

東日本大地震以降、防災意識が高まり、最近では南海・東南海・東海地震の災害が発生した場合においての国の行政機関、地方公共団体、その他の公共交通機関等が一体となって、国民と連携しつつ対応することが求められています。

また、平成24年7月に発生した九州北部豪雨では、防災体制のあり方において諸課題が明らかになったところです。

こうした中、九州運輸局では防災週間期間中の9月3日に防災訓練を実施しました。

今年度は、午前8時00分に長崎県橘湾を震源とするマグニチュード6.4の地震が発生したとの想定のもと、本局に災害対策本部を長崎運輸支局に現地災害対策本部を設置し、訓練を開始しました。長崎運輸支局及び長崎県内の運輸・観光関係業界等と連携し、災害発生時における初動体制等、被災情報の収集・伝達、緊急物資輸送等の実施に係る連絡調整など、職員及び関係業界の防災思想の普及啓発や災害発生時における相互の連絡体制の強化を図ることを目的として実施しました。

訓練では、本局庁舎において「緊急地震速報受信時対応行動訓練用キット」を用いた対応行動訓練や現地对策本部との連絡に衛星携帯電話を使用し、訓練終了後には、訓練に参加した職員による意見交換や訓練参加機関等からのアンケートによって今後の訓練のあり方や実効性のある防災組織体制の維持・整備に反映させていくこととしています。

災害から身を守り被害の軽減を図るためには、日頃から災害に対する備えを心がけることが重要です。

今後もこうした訓練をはじめとした行事等を実施し、防災意識の高揚、防災知識の普及を図ってまいりたいと考えております。

【安全防災・危機管理調整官】

4 九州運輸局セミナー

九州運輸局の各課から業務内容等を紹介するコーナーです。

今回は、海事振興部 船舶産業課です。

船舶産業課は、交通・運輸行政を担う九州運輸局にあって唯一の製造業である造船・船用工業を所管しています。管内には、日本最大級のドックを有する造船所をはじめ500総トン以上建造能力を有する許可造船所が65事業場、500総トン未満の登録造船所が127事業場あり、国内の新造船建造量の3割を占めています。

少子高齢化問題は造船・船用工業界でも例外ではなく、造船業の経営基盤強

化に向けた人材確保・育成そして技能の伝承が喫緊の課題となっています。そこで「次世代人材育成」の地域拠点として、国土交通省、造船事業者、地元自治体が連携し「地域造船技能研修センター」が全国で6ヶ所設立されました。管内には大分県と長崎県に2ヶ所あり、毎年造船所の新人たちを集め研修が行なわれています。造船業が地域の基幹産業として継続的に地域経済・雇用等に貢献できる企業であるため、各研修センターの機能拡大・充実に向け運営協議会と協力して取り組んでいます。

また、若い世代に船づくりの魅力が伝わっていないことから、学校関係者へ造船・船用工業のものづくりについて伝えるとともに、今年は、将来の造船マンをめざす工業高校造船コースの生徒を対象に、下関市の韓釜フェリー(株)様の協力を得て、船上教室『“船”アカデミー』を開催（詳細はH24.8.23付け第180号に掲載）しました。今後も地域においてもものづくりの魅力発信のための学校関係者との取り組みを強化していきます。

国民の海離れが進み、海事産業で働く人材確保が難しくなっていく今、海と国民の距離は、年々遠くなっています。日本海事センターが実施した「海に関する国民意識調査2012」においては、「海が好き」と回答した人は60.7%と東日本大震災前に比べ10%低下しています。これは震災による津波の影響が大きな要因のようです。

こうした中、昨年から、将来を担う子供たちが海への関心を高め、海にふれあう機会を増やし、身近に魅力ある「海体験・海学習」を創出することを目的に、全国に先駆け「九州 UMI アカデミー」を開催しています。今年も新たなメニューを追加し、充実した取り組みを行っています。（詳細はH24.7.26付け第177号に掲載）

なお、国土交通省では、公営競技であるモーターボート競走の監督を行っており、管内には6場の競走場があります。その売上の一部は、地方財政の改善や、船舶造船関連業、海難防止事業、海事思想の普及宣伝、観光事業、体育事業その他の公益の増進を目的とする多くの事業の振興に充てられています。

ちなみに、意外と知られていませんが、管内には全国唯一のボートレーサーの養成施設である「やまと学校」があります。入学時の競争率は約40倍という狭き門を突破した若者が、将来のスター選手を目指して日々訓練を行っています。

最後に、船舶産業課は、造船、船用工業・舟艇などの幅広い業界との対応が求められます。日々、世界市場と戦う中小企業の応援団として、少数精鋭のスタッフが体力勝負で業務に励み、これからも走り続けます。

【海事振興部 船舶産業課】

//////// 編集部より ///
澄み渡る秋空の下、自転車で太宰府へ出かけました。
キンモクセイの香りの住宅街を抜けると黄金色の稲穂が広がっていました。スズメの声も賑やかです。史跡に寄り道しつつ、丘の上の「文化ふれあい館」に到着しました。

展示だけ見るつもりが、ギャラリートークが始まったので聴いてみました。お題は『連歌』。興味が薄かった文学の世界でしたが、若い学芸員の話は、ぐいぐいと私を引っ張っていきます。

太宰府の地と歴史が身近なものになっていく感覚がしました。

史跡の多くは路地や旧街道筋にあるため、自転車での史跡めぐりは最適です。筋肉痛の足をマッサージしながら、次の週末の予定を計画中です。

いつも九州運輸局メールマガジンをご覧いただき誠にありがとうございます。編集部では、運輸と観光行政に関する取組や話題、イベントの案内、地域の情報等、本メールマガジンへの掲載記事を広く募集しています。お気軽にご投稿ください。

//

■九州運輸局メールマガジンのバックナンバー閲覧はこちらから

http://www.tb.mlit.go.jp/kyushu/mail_magazine/top.html

■九州運輸局メールマガジン編集部（九州運輸局総務部内）

mail：mm-kyushu@qst.mlit.go.jp

Tel：092-472-2312 Fax：092-471-7192